

おはようございます。私たちアレンズ、ブルース&ドロシー&テレーズは、あなた方と一緒にイエスに仕えることができることを喜んでいきます。

イエスに仕えることができることを嬉しく思います。使徒パウロが障害や遅れを経験したことについて説教します。私たちもそうでした。私たちは、サタンが私たちをここに来させないようにすると思っていました。サタンは多くの戦いをした。しかし、イエスが私たちを導いてくださったので、サタンは負けました！皆さんの忍耐に感謝します。

OICのための最初の説教シリーズを考えていたとき、私は自分が知っているのはOICの数人しかいないことに気づいた。即ち、カウンスル・メンバーがその大半です。また一方、自分の蔵書にアクセスできるのも限られている。すなわち、今、太平洋上に多くの本がこちらに向かっている。新米クリスチャンの頃、神の御言葉、聖典に深く入っていく説教者たちの足元に座ることができた。優れた説教者は、みことばを扱えば、成熟した人にも若い人にも同じように説教できることを学んだ。良い説教者は、神の御言葉を正しく扱えば、成熟した人にも、若い人にも同じように説教することができるということを私は学んだ。聖霊は、その人の心や思いの中で 聴く人の心の中で本当の教えを行わなければならない。そこで最初のシリーズでは、私の好きな聖書から選んだ。もし無人島に1冊しかない状態で捨てられたら、私が選ぶであろう本だ。

それはローマ書です。それはローマ人への手紙だ。この本はもっと難しい本だと言う人もいるかもしれない。しかし、それを書いた方がここにおられる。その方は、即ち聖霊ですが、使徒パウロを通して、西暦55年頃、この書物に息を吹き込まれたのです。私が言ったように、聖霊は、聖書を理解するためにすべての人を啓発しなければならない。聖霊は、一人一人がイエスに出会えるように、聖書の中にイエスを見いだすことができるように助けてくださる。私たちは、まず、聖霊の導きから始めましょう。

パウロの挨拶の中でも、パウロはイエスの福音を教え、分かち合っている**1節**。使徒パウロという人間の著者が宣言されている。私たちはパウロの手紙から知っている。即ち、テモテへの手紙、2テモテ 3. 16、「すべての聖書は、神（聖霊、神の息）によって吹き込まれたものです。」しかし、クリスチャンはロボットではないからだ。

聖霊に導かれても、その独自性は明らかである。ローマの教会には、パウロのパリサイ人としての人生は、彼の詳細な“神学”において無駄ではなかった。詳細な“神学”についてのメモ。

「神学」を悪いものとする聖職者の話を聞いて、私はがっかりしたことがある。神学はギリシャ語の theos（神）と gnosis（知識）に由来する。救いとはイエスを通して神を知ることであり、神についての単なる知識ではない。しかし、神学が多すぎると批判するのは、夫が妻について知りすぎていると批判するようなものだ。

(ブルース牧師の好きなカナダの表現で、まあまあって感じ!)もしあなたが誰かを愛しているなら、その人のことをもっと知りたいと願うはずだ。クリスチャンも、神もそうなのだ。この聖書の深い神学は、私たちのイエスに近づく機会です。神学とは、神のみことばを正しく分類する神学、すなわち良い神学であるか、あるいは、神のみことばを異端に分類する神学、すなわち悪い神学であるかである。異端の神学である。私は聖霊に、イエスの羊を養うための神の恩恵を切に求めている。イエスの羊である皆さんを、神の良い御言葉で養うためである。

## パウロがローマの教会に挨拶

1節 “キリストの奴隷” アメリカや世界の多くの国々では、奴隷という言葉は “不潔なもの” になっている、

奴隷 ” という言葉は、アメリカや世界の多くの国では “汚れた ” 言葉になっている。18 世紀から 19 世紀にかけて、イギリスやアメリカ大陸でアフリカ人を誘拐し、奴隷として強制的に働かせた人間の罪深い恐ろしさが、奴隷という言葉に悪臭を残している。

この言葉には悪臭が漂っている。パウロがこの奴隷という言葉を使った真意は、明らかにこうではない。明らかに違う。使徒パウロは、自分の救いのために死んでくださったお方との関係を指しているのだ。ギリシャ語の *doulos* という訳語の中には、より正確に “love

奴隷 ” と訳されている。他の訳では “召使い ” となっているが、ギリシャ語ではより従属的な役割を意味している。

元ファリサイ派のパウロは、特にイスラエルの歴史について優れた知識を持っている、“奴隷 ” の意味を明確にしている。イスラエルには紀元前 1500 年頃、奴隷制度が存在した。

それは慈悲をもって管理されていた。この制度は、神を畏れる人々によって制定されたものであり、主ご自身によるものではなかった。

主ご自身によるものではなかった。モーセの支配の下、神の掟に献身した者たちが、この奴隷制度を制定したのである。

モーセは、このような社会制度に神の憐れみを保つよう神に導かれた。

これらの奴隷は、外国から買い取ったか、あるいは戦争の捕虜として、財産として捕らえられていた。しかし、イスラエルの民は、その技術や単に生活上の苦難のために、経済的な豊かさを得ることができなかった。そのために経済的な豊かさを得られないイスラエル人は、同胞の奴隷になることを選ぶかもしれなかった。そしてジュビリー之年、つまり 7 年ごとに、6 年間の隷属の後、神は彼らを解放するように命じられた。

申命記 15. 17 で説明されている。

さて、パウロが “奴隷 ” を自分の主人であるイエスのための奉仕に割り当てた、イスラエルの歴史からの鍵を知ることしよう。主人であるイエスのために仕えることである。主は、すべてのヘブライ人の奴隷に、次のように命じられた。即ち、主は、すべてのヘブル人の奴隷を七年目 (ジュビリー一年) に自由にするように命じておられた。しかし、多くの者は主人の優しさを愛し、奴隷のままであることを選んだ。即ち、神はご自身の律法に背くことを許された。神はモーセを通して奴隷たちに次のように言われた。

(申命記 15. 16-17)... これは旧約聖書の例である。

これは旧約聖書における神の言葉の例である。第2コリント 3.6(KJV)... 神は、また、私たちを新約聖書の有能な奉仕者とされた。

文字は殺すが、御霊は命を与えるからである。文字は殺すが、御霊は命を与えるからである。

神は、この社会が愛を重んじているのを見て、十字架律法よりも自由を与えた、自由よりも愛を重んじたからである。(アンガー辞典 p. 999)

1 節。「神に選ばれた」 神の民の選択に関するパウロの教えは、本書の後半で見ることにして。しかし、今のところ、パウロは、自分が召命を始めたのではなく、神が召命をされたのだと明言している！

神はパウロを何に選ばれたのだろうか？使徒、遣わされた者となる事、そして 神の福音を宣べ伝える働きをすること。

I. 私はこの次の点を、ローマ人への手紙の主要な「教訓」の一つとして選んだ。

ローマの信徒への手紙の中で、覚えて黙想すべき主要な教えの一つとして、この次の点を選びました。

あなたの牧師として、神が私を励ましてくださったように、私はあなたを励ましたいと思います。クリスチャンとしてすること、主がすでにあなたにしてくださったこと、そして主があなたにしてくださろうとしていることを切り離さないように。

このローマへの手紙から、ひとつの大きな教え、あるいは実践的な結果が得られると信じています。このローマへの手紙から得られる一つの大きな教え、あるいは実践的な結果は、次のような挑戦である。

イエスに従うことを真剣に考えている信者は、イエスが導いてくださるところならどこにでも、そしてイエスが彼らに求めてくださることなら何でも、イエスに従わなければならない。

イエスが彼らに求めるものは何でも。それは、パウロが明らかにしている神と御子に関する多くの事実に示されている。

が明らかにしている。これらの複雑な教えの多くを理解するために祈ることは

このような複雑な教えの多くを理解するために祈ることは、あなたがキリストのようになるにつれて、神があなたの人生を神に喜ばれるような絵に描かれるようにする。

キリストに似た者となるように。しかし、この場合、パウロは次のように区別している

ローマ人への手紙の一節を引用して、ローマ人への手紙の主要なテーマは何かと尋ねる人も多いだろう。

ローマ人への手紙の主なテーマは何ですか？パウロが言葉によって、最も複雑な絵画と美しい芸術作品を創造しているように、ローマ人への手紙の主要なテーマは何なのだろうか。

神のご性質とご性質を明らかにする最も複雑な絵画であり、美しい芸術作品である。

Vine's Expository Bible (ヴァインの説教的聖書) には、以下のような序文がある。

テーマである：

「ローマ人への手紙は、これまで書かれた中で最も影響力のある書物かもしれない。ローマ人への手紙は、これまで書かれた中で最も影響力のある書物かもしれない。

ローマ人への手紙は、これまで書かれた中で最も影響力のある書物かもしれない： 聖アウグスティヌス、マルティン・ルター、ジョン・ウェスレーである。

ローマ人への手紙』は、その高尚な神学的文章によって、今日でも人々の生活を変えている。

**人類の罪の問題と神の救いの根本**を伝えている。」

解決策” このテーマと、罪人を聖徒に変え、そして遣わされた者に変える神の力と計画。

そして、神の意志によって遣わされた者、教会の指導者へと変貌させる神の力と計画は、ローマ書ほど明白なものは他にない。

ローマの信徒への手紙の中にある。人が人類の罪の問題に直面するとき、自分自身や他の人の罪の問題に直面するとき

聖霊は、まず自分自身のために行動する力を与え、次に、その必要を満たすために行動するよう呼びかける。

聖霊は、まず、あなた自身のために、そして、私たち自身のように、キリストによって見出されるまで失われていた他の人々の救いの必要を満たすために、行動するようと呼びかけている。

キリストによって見出されるのです。

そこで、皆さんに2つの質問をします。1. パウロが知っていたように、あなたは神によって選ばれ、召されていることを知っていますか？

神によって召されていることを知っていますか？そして、2. 人類の罪の問題と神の救いの解決法を知っていますか？

そして、それがあなた個人にどのように当てはまるかを知っていますか？ローマ書は、私は祈ります。皆さんの疑問の答えとなり、この2つの質問を確認してくれることだろう。

**2 節** 「神は、預言者たちを通して、聖書の中で、昔、良い知らせを約束されました。

聖書の中で。”あなたがたの神は来られる。(イザヤ 40.9)、また(イザヤ 9.6/KJV )では

とはいえ、その暗闇と絶望の時が永遠に続くわけではない。ゼブルンとナフテの地

ゼブルンとナフタリの地はへりくだる。

異邦人のガリラヤは、ヨルダン川と海の間を走る道沿いにある。

海との間を走る道沿いにある異邦人のガリラヤが栄光で満たされる時が来る。暗闇の中を歩く人々は、大きな光を見るだろう。

深い闇の地に住む人々には、光が照らされる。私たちに子が生まれ

私たちのために子が生まれ、私たちのために子が与えられる。

その名は、すばらしく、助言者、力ある神、永遠の父と呼ばれる、

平和の君。

学者としてのパウロは、ユダヤ人にとって、自分たちのメシアを古い契約、すなわち、平和の王子

と結びつけることの重要性を知っていた。

新約聖書はまだ書かれていなかったのだから、この聖句にある「聖典」である。

聖典はまだ書かれていなかったからだ。彼はまた、このことが神にとってどれほど重要であるかも知っていた。

古い宗教はクリスチャンを根も歴史もない新しい宗派として非難するだろうから。

生ける神の現実、神がご自身の約束を過ちなく守られ、今もなおその約束を守り続けておられることから、人々に明らかにされた。

約束は過ちなく守られる！神の約束はすべて御子イエス・キリストに関するものである。だから、パウロの手紙の挨拶部分の2節で、パウロは次のように証言している。

イエスが私たちの主であり、単なる教師、指導者、地上の英雄ではないことを、パウロは証している。パウロの言う主、師とは

パウロの言う主、師とは、神の師という意味である。「ダビデの種」は、パウロの手紙のユダヤ人読者にとって重要な証である。

「ダビデの種」というのは、彼の手紙を読んだユダヤ人の読者にとって重要な証であり、ローマには多くの読者がいた。約束されたメシアがダビデ王がその王朝を永続させるという神の約束を果たすことだった。彼はわたしに神殿を建ててくれる者である。そして、私は彼の王国を永遠に続ける。永遠に。(2サムエル7.13)しかし.....ダビデの息子ソロモンは神に不誠実であった。ダビデの地上王国は分割され、物理的な敵である隣接諸国に対して弱体化した。

ダビデ王国は分割され、物理的な敵である隣国に対して弱体化した。しかし、学者であるユダヤ人たちは、神がイスラエルを回復して継続させるという約束を知っていた。

イスラエルを継続させるという神の約束が、完全な回復、すなわち彼らの王を永遠に導くかもしれないことを、学者であるユダヤ人たちは知っていた。パウロはこのように

は、ダビデの子孫についてこのように指摘した。

**4節では**パウロは、キリスト教には次のような一つの歴史的出来事があると、事実に基づいて述べている。

キリスト教には、その指導者が殺され、復活したと主張する唯一の歴史的出来事があると、パウロは事実として述べている。それは

聖霊は、イエスを墓からよみがえらせるためにその力を用いられた。

神の子であると宣言したのである。パウロは再び、誰に召命を与えられ、その召命を果たす力を与えられたか、それは神の子イエスであると述べている。

神の子である。使徒たちに与えられた報われない好意(神の恵み)は、その結果、あらゆる国の人々を神の御子に従わせることになる。**すべての国の人々がイエスの福音に従うようになる。人は福音を信じるだけで。**

福音に従うのです。つまり、イエスがあなたのためにしてくださったこと、つまり十字架上で死んであなたの罪の罰をご自身の身に受けてくださったことを信じるのです。

イエスがあなたのためにしてくださったことを信じることです。

6 節で、パウロはローマの信徒たちに、自分たちも神の召命に含まれていることを思い出させる。神の優先順位を繰り返すことをためらわないパウロは、7 節で祝福を込めてこう繰り返す。彼らは愛され、聖人として召され {聖なる生き方}、パウロは神の祝福の平和と報われない好意を彼らに宣告する。パウロは彼らに神の祝福と平和を宣言する。

このクリスチャンの会衆に向かって言わせてほしい。

ローマ人への手紙第 1 章にある励ましを、皆さんは受け取ることができます。また、神が私たち全員を、神が私たち全員を聖なる者となるように召され、聖なる者であることを自覚しておられることを。ほとんどの人はセルフ・イメージが乏しかったり、低かったりする人は、人生において大したことを成し遂げられないということに、ほとんどの人が同意するだろう。セルフ・イメージの低さは、神の前での謙虚さではない。神の前に謙虚であることは良いことだ。クリスチャンにとって、セルフ・イメージの低さとは、新しく生まれ変わってから、キリストにある自分の新しい命が、自分に対する期待を高めてくれないことである。

キリストにあるあなたの新しい命が、あなた自身とあなたの内側に働いているキリストの力に対する期待を高めてくれないことです。イエス・キリストの血の犠牲によるきよめを信じ、経験することは、人に次のような素晴らしい感覚を与える。

“私は大切な存在だ！”という素晴らしい感覚を人に与える。イエスが私のために死んでくださったのです。神が約束されたように、私の人生に未来と希望に満ちた素晴らしいことをしてくださるのだ。

(エレミヤ 29. 11 )。ローマ 1. 6 でパウロはこう宣言している、  
したがって、あらゆる国のあらゆるクリスチャンが、イエスに属するように召されているのである。

さて、パウロはさらに、イエス・キリストの福音とは何かについて述べている。

**8 節** お世辞を言うのではなく、パウロはローマのクリスチャンたちに特別な賛辞を贈っている。確かに、パウロは、厳しい訂正の手紙でさえ、肯定的な励ましで始めている。

積極的な励ましで始める。しかし、ローマの信徒への手紙には、このようなクリスチャンに対する特別な訂正はない。

彼らの成熟に対するより大きな神学がある。彼らはローマにいた。シーザーの本拠地である。

ですから、信仰を続けるためには多くの試練があったに違いありません。しかし彼らは  
でイエスが弟子たちに教えたように、彼らは自分たちのクリスチャンであることを隠していたわけ  
ではない。

マタイ 5 : 14-15/JBP 「あなたがたは世の光である。山の上に立てられた町を隠すことは不可能である。人は灯をともし、それをバケツの下には置かない。ランプはランプスタンドの上に置く。そうすると家の中のすべての人を光が照らすのである。」彼らは聖霊に導かれて  
イエスの教えに従った。あなたがたの信仰が世界中で語られている。(8 節).

パウロのように遣わされた者は、キリストを宣べ伝えようとする熱意のために苦しみを受けたので、他の人々、特にキリスト者でない人々に対して特別な愛情を持つようになる。

他の人たち、特に聖職に就いていないクリスチャンで、同じような行動をしている人たちに特別な愛情を持つようになる。

だから (9 節)、パウロはローマの教会のために喜びと重荷を分かち合っている：

彼は彼らのために神に感謝し、彼らのために昼も夜も頻繁に祈った。ここでもパウロは心を尽くして神に仕えることを強調している。

イエスとのストイックな関係ではない。多くの宗教は、奉仕者の犠牲や苦しみに対するストイックさに基づいて、神よりも人間を高く評価する。

クリスチャンは、自分たちの苦しみは、キリストがキリストの十字架上の苦しみとは比べものにならないことを知っている。パウロ、そしてすべての聖書は、次のように証言している。

愛と奴隷の関係は、強制されることなく、選択によるものである。まずイエスが私たちを選んでくださった。

私たちはイエスに忠実に従うことを選ぶことができる。それがローマのクリスチャンたちが示した模範なのだ。

あなたを訪ねて、あなたが主にあって強く成長する助けとなるような霊的な賜物をお届けしたいと思います。

主にあって強く成長するのに役立つ霊的な賜物をお持ちします。8 節から 9 節を見ると、使徒パウロの神の民に対する愛には、神の民を見たいという人間的な願いと、使徒パウロが神の民を愛していたことは、8-9 節を見れば明らかである。神からの賜物を霊的な奉仕のために捧げることであった。主によって召された男女は、このような態度を主と共有している。

主のように愛した者は誰もいなかったが、主は決して奉仕をやめなかった。また奉仕することをやめなかった。

**II 私は、ローマ人への手紙の中で、この次のポイント、すなわち TAKE-AWAY を決めた。**

イエスの臨在は私たちとともにおられる神であるから、イエスの他者への奉仕は時に次のように見えるかもしれない。教え、勧め、救い、癒し、預言などよりも受動的に見えるかもしれない。ただ人々と共におられることは力強い。使徒ペテロが異邦人のコメリウスの家族に語ったように（使徒言行録 10. 35 /IBP\_）でコメリウスの家族に語ったように： *あなたがたは、ナザレのイエスの話を知っているはずで、*

*ヨハネが宣べ伝えたバプテスマの後、ガリラヤから始まって、ユダヤ全土に広まったのです。*

*ヨハネが宣べ伝えた。ヨハネが宣べ伝えたバプテスマの後、ガリラヤから始まって、ユダヤ全土に広まった。彼がどのように善を行い、悪魔の力に苦しむすべての人をいやしたか。*

*神が彼とともにおられたからです。それゆえ、彼に注がれた聖霊の量は*

*は、彼の周りのすべての人に影響を与えた。私たち牧師とすべてのクリスチャンは、主ほど油注ぎがないとしても、聖徒であろうと罪人であろうと、人々と共にいることによって、聖霊が彼らの人生に積極的に働きかけられることを忘れてはなりません。*

*聖霊が彼らの生活の中で活躍されるのです。神はいつも、人々をご自分とのより深い*

*より深い関係に引き寄せられる。確信をもって神の臨在に信頼することは、すべてのクリスチャン*

にとって重要な目標である。すべてのクリスチャンにとって重要な目標である。ですから、ローマ人のクリスチャンたちは、次のように結論づけることができます。

内在する聖霊によって、イエスの臨在を確信をもって信頼して生きていたと結論づけることができる。

正しい謙遜のもう一つのポイントは、パウロの使徒としての召命における神からの大きな恵みに見られる。使徒として召されたことである。彼は自分の内側におられるイエスの聖霊を確信していた。彼は、すべてのクリスチャンが同じ聖霊を持っていることを知っていた。

**12 節** :..... このように あなたがたのところで、あなたがたとわたしが互いに持っている信仰によって、励まし合いたいです。

神はイエスの正しい謙遜を、首の固い頑固なパリサイ人であったイエスに教え込まれたのである。頑固なパリサイ人であり、事実上クリスチャンを殺害する者であった。パウロの素晴らしい働きに惑わされてはならない。

その働きの源である、パウロに対する神の無償の恩寵を隠してはならない。この恵みはこの恵みは、イエスがあなたをどのような人生に導こうと、あなたにも与えられるのだ。

さて、ローマ 1. 12-15 で、パウロはローマの教会で宣教し、交わりたいという心の願いを表している。パウロは、ローマの教会で宣教し、交わりたいという心情を表している。パウロの願いは神にある；ローマへの旅は、投獄されることによってもたらされる。野球に「野球」という表現がある。

野球選手だけでなく、牧師にも当てはまる。「野球は謙虚な男、あるいはすぐにそうなる男のためのゲームだ！」（ネッド・マーティン（ボストン・レッドソックスのラジオアナウンサー 1960 年代のボストン・レッドソックスのアナウンサー）。使徒パウロは、その心の中にある湧き上がるような願望を抱いていた。しかし神の待ちなさいとの啓示がありました！

パウロはすでに非常に謙遜で、迫害者たちから 39 回の鞭打ちを受けた。しかし、彼はまだ人間だった。パウロは、全世界、あるいは異邦の国々で成功するという召命に対する素直な確信を神から与えられていた。彼はおそらく、ローマへの宣教の旅を続けることを期待していたのだろう。

**13 節.** 兄弟たち、ぜひ知ってもらいたい。ほかの異邦人のところと同じく、あなたがたのところで何か実りを得たいと望んで、何回もそちらに行こうと企てながら、今日まで妨げられているのです。親愛なる兄弟姉妹、あなたがたに知っていただきたい。

すべてのクリスチャンは、その成功の度合いがどのようなものであれ

すべてのクリスチャンは、永遠のこちら側での成功の度合いがどうであれ、パウロの善い働きの計画が妨げられたことに共感できる。

~イエスのために全世界を伝道するという神の計画を妨げることはできても、妨げることはできない。イエスのために全世界を伝道するという神の計画を妨げることはできない。



テサロニケ人への手紙二 2・18) 私たちは、あなたがたのところに行きたいと強く願っていました。しかし、サタンに妨げられました。

～彼はマケドニアで、天からの新しい戦略によって神の確かな NO を経験した。(使徒 16.6) : 次に、パウロとシラスは、フリギアとガラテヤを旅した、というのは、その頃、聖霊によって、彼らがアジア諸州でみことばを宣べ伝えることが妨げられていたからである。

アジアを旅した。パウロは、何が自分の歩みや計画を変えたのか、いつも説明しなかった。遅かれ早かれ、主がその奉仕を裏切るものにしてくださると信じていたからである。パウロはまだ幼い時に(箴言 3.5-6)にある神の聖句を学んだ。

自分の理解力に頼るな。自分の理解に頼るな。

主は進むべき道を示してくださる。

～イエスの勝利へと導かれるために、彼は明らかな敗北を経験しようとしていた、神が彼に約束された、王や皇帝たちの前での偉大な証しとともに、彼は投獄された。と約束された。彼が乗っていた船が台風に巻き込まれたとき、主は彼に天使を遣わされた。(使徒言行録 27.23) 昨夜わたしが仕え、礼拝している神からの天使が昨夜わたしのそばに立って、24 こう言われました。『パウロ、恐れるな。あなたは皇帝の前に出頭しなければならない。神は、一緒に航海しているすべての者を、あなたに任せてくださったのだ。』25 ですから、皆さん、元気を出しなさい。わたしは神を信じています。わたしに告げられたことは、そのとおりになります。

こうしてイエスは、別のルートでパウロの心の願いに応えてくださった！

私には、文明世界とそれ以外の世界の人々に対する大きな義務感があります。

**15 節** だから、わたしはローマのあなたがたのところにも来て、福音を告げ知らせたいのです。

ローマでも、良い知らせを宣べ伝えるために。パウロは、失われた人類に対する心の重荷を分かち合っている。

人間のために。彼の義務感 (NASB) は、イエスの重荷を分かち合うことである。

社会のあらゆる階層で、世界のあらゆる国々で、失われた人々のために。私たちにとって重要なのは

私たちは、彼がイエスに対して義務を負っていないことに注意しなければならない。イエスに義務を負うことは、救いの無償の賜物を否定することになる。

救いの無償の贈り物を否定することになる。イエスは、私たちがイエスを愛することを望んでおられる。

イエスを愛することを望んでおられる。多くのクリスチャンはこの自由を見逃し、イエスに救いの贈り物を返そうとする。

救いの恩返しをしようとする。世の罪人に対する義務とは、彼らがイエスという神の贈り物を必要としていることを知る謙虚な態度である。

神の贈り物であるイエスを、私たちと同じように必要としていることを知る謙虚な態度である。彼らには相応しくない贈り物であり、私たちにも相応しくない！

失われた人々に対するこの義務感は、パウロの感情的な表現へと流れていく。

**16 節にある、イエスを知り、イエスを知らせるといふパウロの人生へのコミットメントの感情的表現に流れている：**

私は、キリストについてのこの福音を恥じることはありません。私は、キリストについてのこの福音を恥じることはありません、  
信じるすべての人-まずユダヤ人、そして異邦人も-を救うのです。この良い知らせは、神がどのようにして私たちを神の御許で正しい者としてくださるかを教えている。

この福音は、神がどのように私たちが神の御目において正しい者としてくださるかを教えている。

イエスのために魂を導くために人生を捧げるクリスチャンの心に、恥じる余地はない。  
イエスのために命を捧げるクリスチャンの心に、恥じる余地はない。あなたの心に、イエスのために人々に手を差し伸べるパウロの天の愛の炎を想像させてください。  
クリスチャンは、パウロのような才能や外見的な性格を持っていないかもしれませんが、私たちは皆、次のようなことができるのです、  
パウロは人類の罪の問題の根本を理解していた。  
パウロは人類の罪の問題と神の救いの解決策の根本を理解していた。そして彼はまた  
イエスに召され、聖霊の力をもって、人類の問題に対する神の解決策を伝えるようになった。  
イエスに召されたのだ。このような複雑な世界では、私たちクリスチャンは、なぜ教会がまだ地上にあり、まだ天にないのかを忘れてしまいがちだ。

教会はまだ地上にあり、天に召されていない、

私たちは、イエスの福音を信じるように人々を説得することを第一の目的としてここにいる。

イエスの福音を信じさせるためです。イエスの教会である私たちは、政府を変えるためにここにいるのではない。

個人は政府の仕事に召されるかもしれないが、すべてのクリスチャンは次のことを分かち合うべきである。

パウロの義務は、人類を愛する神から引き離す罪という根本的な問題を解決することである。  
すべてのクリスチャンは、彼らを愛する神から彼らを引き離す罪という人類の根本的な問題を解決するというパウロの義務を共有すべきなのだ。すべてのクリスチャンは  
神の解決策であるイエスの罪のためのいけにえを伝えるために。

ローマ人への手紙1章から、いくつかの教訓を簡単に復習する。-

## L. 存在と罪のバランス

### 2. 神が共にいてくださるという確信

### 3. ローマの信徒への手紙のメインテーマ

人類の真の罪の問題と神の解決策-御子イエス

もしあなたが、イエスがあなたの心を新たにかき立て、次のような献身的な行動を起こされるのを感じるなら、それは次のようなことです。

神の解決策を人類に伝えるために、今すぐ神に祈ってください。

祈りのコーナーでお会いしましょう。